

【回答様式1】取組一覧

●札幌市温暖化対策推進計画における中期目標の達成に向けた主な取組結果

取組内容	平成29年度の結果	平成30年度の予定
(1) 家庭		
①高断熱・高気密住宅の普及【目標削減量：約46万t-CO₂】		
○目標達成に向けた主な取組の実施状況と今後の予定		
札幌版次世代住宅基準に適合する戸建新築工事や既存住宅の省エネルギー工事に対する補助制度の運用などにより、住宅の高断熱高気密化を普及促進します。	・札幌版次世代住宅（ベーシックレベル以上）を新築した市民の皆さまに対して、補助を実施しました。 【H29実績】107件 ・省エネルギー工事（窓、断熱）を行った市民の皆さまに対しても補助を実施しました。 【H29実績】148件	平成29年度と同様の取組を継続します。
高断熱高気密住宅のモデル住宅を公開展示などによって普及啓発を行います。	札幌版次世代住宅の周知を図るため、住宅フェアへの出展、住宅展示場にて模型の設置、住宅関連のセミナーで講演を行いました。 ※モデル住宅展示場は平成28年度をもって展示義務期間満了となりました。	平成29年度と同様の取組を継続します。
○今後検討が必要な取組についての状況		
集合住宅の高断熱高気密化に向けた取組を検討します。	・集合住宅の高断熱高気密化に向けた方向性の検討を行いました。 ・市営住宅をモデルとした集合住宅高断熱改修工事の実施設計を行いました。	・集合住宅の高断熱高気密化に向けた制度運用方針の検討を行います。 ・市営住宅をモデルとした集合住宅高断熱改修工事を行います。
効率的なエネルギーシステムを導入するモデル地区整備の支援について検討します。	将来的な水素の利活用に向けた札幌市の方針として、「札幌市水素利活用方針」を策定しました。また、真駒内地区をモデルとしたスマートコミュニティの実現に向けて、導入可能な技術等の調査・検討を実施しました。	真駒内地区をモデルとしたスマートコミュニティに関して、真駒内駅前地区再編に伴う具体的な施設再配置案を基に、事業化のシミュレーションを行います。
②省エネ・再エネ機器の普及【目標削減量：約124万t-CO₂】		
○目標達成に向けた主な取組の実施状況と今後の予定		
エネルギーの見える化によるスマートな省エネの取組を推進するため、見える化機器の普及を促進します。	家庭向けに見える化機器の貸出を行いました。 【貸出世帯数】103世帯	これまでの郵送による貸出から、環境プラザでの窓口貸出に変更し、実施します。
太陽光発電などの再エネ機器や、燃料電池、コージェネレーションなどの導入に対する補助制度の運用により、省エネ再エネ機器の普及を促進します。	省エネ・再エネ機器導入のための補助事業である「札幌・エネルギーecoプロジェクト（市民向け）」を実施しました。 【補助実績】 太陽光発電：349件、1,657kW エネファーム：117件 コレモ：313件 木質バイオマスストーブ：66件	引き続き、「札幌・エネルギーecoプロジェクト」を実施します。 【対象機器】 太陽光発電、エネファーム、コレモ、木質バイオマスストーブ
省エネ再エネ機器に関する総合窓口などを活用して、機器導入に係る相談、補助制度や使い方についての情報提供を強化します。	・環境プラザで、ソフト対策だけでなく、機器導入などのハード対策も含めて対応できる「省エネ・節電総合相談窓口」を運営しました。 ・業界が実施する各種会合等で、補助制度に係る概要説明を実施するとともに、普及啓発イベントを開催しました。	・相談日を毎週木曜日（13:00～16:00）に変更し、実施します。 ・業界が実施する各種会合等で、補助制度に係る概要説明を実施するとともに、普及啓発イベントを開催する予定です。
○今後検討が必要な取組についての状況		
太陽光発電などの再エネ機器やHEMSなどの省エネルギーシステムの設置を促す義務的的制度について調査研究し、施策に反映します。	今後の検討に向け、他都市事例の情報を収集した。	今後の検討に向け、引き続き、他都市事例の収集などに努める。
太陽光発電設備に関する市民の出資によるファンドの設立支援を検討します。	「札幌・エネルギーecoまちづくり補助」にて市民出資向け太陽光補助制度を実施しました（申し込みは0件）。	市民出資による太陽光導入に関して、他都市の取り組みなど情報収集に努めます。
賃貸共同住宅などへの高効率機器の普及促進に向けた取組を検討します。	・第10次札幌市環境保全協議会において、省エネな賃貸住宅の選び方や住まい方のチェックポイントなどを掲載した「賃貸住宅の選び方・住まい方マニュアル」を作成しました。 ・マンション管理組合向けに、共用部の新エネ、省エネ機器導入に係る補助制度を実施しました。	マンション管理組合、及び賃貸共同住宅向けに、共用部の新エネ、省エネ機器導入に係る補助制度を実施します。
③省エネ行動の実践【目標削減量：約32万t-CO₂】		
○目標達成に向けた主な取組の実施状況と今後の予定		
それぞれのライフスタイルに合わせた節電などの環境配慮行動の実践を促進します。	エネルギー使用状況を「見える化」しながら診断し、各家庭のライフスタイルや機器・設備に合わせた省エネアドバイスを行う「うちエコ診断」を実施しました。 【実施世帯】261世帯	平成29年度と同様に実施します。
家庭、町内会、地域単位などさまざまな繋がりでの環境活動やクールシェア、ウォームシェアなどの取組を支援します。	・区民講座や町内会向けに出前講座を行いました。（7ヶ所） 【ポスター掲出数】市有施設及び民間施設、地下鉄まど上広告：約6,000枚 【リーフレット配布数】市有施設及び各種イベント：10,000部 【啓発品配布数】市有施設及び各種イベント：30,500個	平成29年度と同様に実施します。
エコライフレポートや環境教材を活用して、子どもたちの環境意識の醸成を図ります。	・市立の全小中学校にエコライフレポートを配付し、夏休み及び冬休みにおけるエコ行動の取組を推進しました。 【レポート提出枚数】 合計約25万枚 取組率：夏95.4%、冬94.3% ・札幌市環境副教材を年次改訂し、市立全小学校の新1、3、5年生に配付しました。 ・「さっぽろこども環境コンテスト」を開催し、小中学生が実施した環境保全活動を発表・周知する場を創出しました。 【出場団体数】 10団体（小学生の部：2団体、中学生の部：4団体、学校外団体の部：4団体） 【来場者数】 180人	引き続き、夏休み・冬休みエコライフレポート（市立小中学校を対象）及び札幌市環境副教材（市立小学校を対象）を配付するとともに、小中学生が取り組んだ環境保全活動を発表・周知する「こども環境コンテスト」を開催します。

取組内容	平成29年度の結果	平成30年度の予定
○今後検討が必要な取組についての状況		
自主的な環境配慮行動の実践を促すための効果的な手法について検討します。	ムダなく、かしこく、省エネ・節電を楽しむ暮らし方であるさっぽろスマートライフの定着を目指して市民に呼びかける「さっぽろスマートシティプロジェクト」において、自主的な環境配慮行動を促進するための様々な取組を行いました。	環境首都10周年の啓発とあわせて、環境配慮行動の実践についても啓発します。
観光などの目的で市内に滞在する人及び行事や催し物などの参加者に対しても、環境配慮行動の実践の促進を検討します。	・ムダなく、かしこく、省エネ・節電を楽しむ暮らし方を呼びかける「さっぽろスマートシティプロジェクト」のイベントや広報物などを通じて、市民以外の方にも普及啓発活動を行いました。 ・東北以北最大の総合環境イベントである「環境広場さっぽろ」を開催し、市民の皆様の環境保全に対する意識の醸成、行動の促進を図りました。 【来場者数】33,028人	市有施設でのポスター啓発等を継続するほか、環境広場さっぽろについては規模を拡大して開催します。
(2) 産業・業務		
①省エネ・再エネ設備の普及【目標削減量：約46万t-CO ₂ 】		
○目標達成に向けた主な取組の実施状況と今後の予定		
太陽光発電などの再エネ機器、燃料電池、コージェネレーションシステムに対する補助制度の運用により、機器の普及を促進します。	省エネ・再エネ機器導入のための補助事業である「札幌・エネルギーecoプロジェクト（中小企業向け）」を実施しました。 【申し込み実績】 太陽光発電 4件 33kW	引き続き、「札幌・エネルギーecoプロジェクト（中小企業向け）」を実施します。 【対象機器】 太陽光発電 ガスコージェネレーション
高効率給湯暖房機器やLED照明、BEMSなどの導入に対する補助制度の運用により、機器の普及を促進します。	省エネ・再エネ機器導入のための補助事業である「札幌・エネルギーecoプロジェクト（中小企業向け）」を実施しました。 【申し込み実績】 LED照明 75件 ガスヒートポンプエアコン 18件 電気式ヒートポンプエアコン 18件	札幌・エネルギーecoプロジェクト（中小企業向け） 【対象機器】 LED照明 ガスヒートポンプエアコン 業務用電気式ヒートポンプ給湯機 電気式ヒートポンプエアコン
ごみ埋立跡地などの未利用地を活用した太陽光発電の誘致を促進します。	前年度までの誘致施設について、引き続き運用を行いました。	これまでの誘致施設について、運用を継続します。
太陽光発電導入促進のため、土地所有者と発電事業者のマッチング制度を推進します。	ホームページでの情報提供にてマッチング事業を実施しました。	左記内容にて運用を継続します。
○今後検討が必要な取組についての状況		
太陽光発電などの再エネ機器やBEMSなどの省エネ機器の設置を促す義務的的制度について調査研究し、施策に反映します。	今後の検討に向け、他都市事例の情報を収集しました。	今後の検討に向け、引き続き、他都市事例の収集などに努めます。
CASBEE札幌の改定などを通じて、より環境性能の高い建築物の普及推進を図ります。	CASBEE札幌Aランク以上の物件数をH31までに100件増（年平均20件増）の206件とすることを目標に普及に努めました。 【実績】 昨年度より24件増の185件となる見込み	引き続き、市民、事業者に対し普及啓発活動を行い、環境性能の高い建築物の普及推進を図ります。
②省エネ行動の実践【目標削減量：約49万t-CO ₂ 】		
○目標達成に向けた主な取組の実施状況と今後の予定		
積雪寒冷地特有の運用改善を札幌版省エネ技術として確立し、普及拡大に努めます。	・市有施設などで行った運用改善事例を、経営者を主な対象としたセミナーやビルメンテナンスに携わる技術者などを対象とした技術講座で紹介しました。併せて、公式ホームページでも公開しました。	引き続き、市有施設で行っている運用改善事例をセミナーや技術講座などで紹介をします。
事業者を対象とした講習会を実施し、事業者のエネルギー使用量削減に向けた取組を支援します。	経営者を主な対象としたセミナー（66名受講）やビルメンテナンスに携わる技術者などを対象とした実地講座（全7回の連続講座45名受講）を開催しました。	引き続き、セミナー開催のほか、技術講座及び市有施設を活用した実地講座を開催する予定です。
電力使用状況の把握・見える化を通じて、市内製造業者におけるエネルギーの効率的利用を推進します。	省エネの顧客となる市内事業者と省エネの担い手となる市内施工業者を繋ぐ省エネルギーの総合窓口を開設・運営する事業者に対して、支援を実施しました。	引き続き、省エネルギーの総合窓口を担う事業者に対して、支援を実施します。
○今後検討が必要な取組についての状況		
省エネの取組を促進する手法について検討します。	・市有施設における省エネ技術の検証を行い、過去の検証事例について、セミナーなどでの紹介やインターネットでの公開を行いました。 ・市有施設の効率的なエネルギー利用の促進・節電取組を強化するため、平成28年度に設置したデマンド監視装置を活用し、電力の見える化を推進しました。 ・市有施設のエネルギー使用状況について、抽出した施設を対象に、専門家によるエネルギーデータ分析や現地調査を実施し、運用改善提案を行いました。 ・市有施設における省エネ技術の検証を行い、過去の検証事例について、セミナーなどでの紹介やインターネットでの公開を行いました。	・引き続き市有施設での検証を行うほか、市有施設を活用し、ビルメンテナンスに携わる技術者などを対象とする実地講座を開催する予定です。 また、事業者向けの省エネの総合窓口を立ち上げ、省エネのビジネス化を進めることで、事業者における省エネの取組を促進していきたいと考えています。 ・引き続き市有施設に設置したデマンド監視装置を活用し、省エネ・節電の取組を推進します。 ・引き続き市有施設での検証を行うほか、市有施設を活用し、ビルメンテナンスに携わる技術者などを対象とする実地講座を開催する予定です。
観光関連の行事や催し物の主催者に対する環境配慮行動の実践の促進を検討します。	後援事業の認定の際、北海道エコイベント指針の順守を呼びかけることにより、主催者に向けた環境配慮行動の実践を促しました。	環境配慮行動をさらに促す手法について検討します。
③環境産業の振興と人材育成【目標削減量：－】		
○目標達成に向けた主な取組の実施状況と今後の予定		
積雪寒冷地における環境関連技術の研究開発や事業化を支援します。	札幌型環境・エネルギー技術開発支援事業及び小規模企業向け製品開発・販路拡大支援事業にて、6件の技術・製品開発と1件の販路開拓・拡大の取組に対して支援を実施しました。	札幌型環境・エネルギー技術開発支援事業等にて、5件の技術・製品開発と2件の販路開拓・拡大の取組に対して支援を行う予定です。
札幌版省エネ技術の普及拡大に向けた人材育成を推進します。	省エネ推進のため、省エネに携わる技術者向けの人材育成モデルを基に技術講座などを開催しました。	引き続き、人材育成モデルを基に技術講座などを開催します。

取組内容	平成29年度の結果	平成30年度の予定
○今後検討が必要な取組についての状況		
積雪寒冷地における環境関連技術を活用した製品化や事業化のさらなる支援について検討します。	札幌型環境・エネルギー技術開発支援事業及び小規模企業向け製品開発・販路拡大支援事業にて、6件の技術・製品開発と1件の販路開拓・拡大の取組みに対して支援を実施しました。	札幌型環境・エネルギー技術開発支援事業等にて、5件の技術・製品開発と2件の販路開拓・拡大の取組みに対して支援を行う予定です。
積雪寒冷地における運用改善技術の産業化によって、さまざまな企業への普及拡大を図り、省エネと環境産業の振興を進めます。	省エネの顧客となる市内事業者と省エネの担い手となる市内施工業者を繋ぐ省エネルギーの総合窓口を開設・運営する事業者に対して、支援を実施しました。	引き続き、省エネルギーの総合窓口を担う事業者に対して、支援を実施します。
(3) 運輸		
①次世代自動車の導入【目標削減量：約71万t-CO ₂ 】		
○目標達成に向けた主な取組の実施状況と今後の予定		
電気自動車やハイブリッド自動車などの導入に対する補助制度を運用し、次世代自動車の普及を推進します。	市民・事業者の導入する次世代自動車に対して補助を実施しました。 【申請件数】 ・EV：28台 ・PHV：32台 ・HV：66台 ・NGV：2台	制度内容を見直しつつ、継続して補助制度を運用する予定です。 【主な変更点】 ・補助対象に燃料電池自動車（FCV）を追加 ・HVの補助対象を緑ナンバーのバス、トラックに限定
電気自動車の充電設備設置に対する補助制度を運用し、設置を促進します。	事業者の設置する一般開放される充電設備及び市民が電気自動車等と住宅との間で相互に電力を供給することができるV2H充電設備に対し、補助を実施しましたが、申請実績はありませんでした。	制度内容を見直しつつ、継続して補助制度を運用する予定です。 【変更点】 ・事業者の設置する一般開放される充電設備を補助対象から除外
○今後検討が必要な取組についての状況		
さらなる次世代自動車への転換を図るため、燃料電池自動車への導入補助、燃料電池自動車に係る水素重点設備の設置補助などの検討を進めます。	・北海道と連携した水素ステーションの整備等に係る補助制度を創設し、平成30年3月に札幌市内初の水素ステーション（移動式）が整備されました。 ・燃料電池自動車の公用車への率先導入を行いました。	・道内における水素ステーションの展開、燃料電池自動車の普及に向け、北海道や道内自治体と連携、協議を進めます。 ・FCVは、災害時等の非常用電源としても活用できることから、その有用性をイベント等でPRし、普及促進を図ります。
②エコドライブの推進【目標削減量：約3万t-CO ₂ 】		
○目標達成に向けた主な取組の実施状況と今後の予定		
運転解析機器の貸出や運転シミュレーターによる体験会の開催などを通じた、運転の見える化により、エコドライブの実践を支援します。	エコドライブに取り組む企業に対し運転解析機器を貸出したほか、市内商業施設等で運転シミュレーターを用いたエコドライブ体験会を開催しました。 【解析機器】4社、43台に貸出 【エコドライブ体験会】23回実施、体験者567名	支援内容を見直しつつ、継続して実施する予定です。
事業者向けにエコドライブの手法や指導方法を学べる講習会を開催し、活動の定着を図ります。	市内事業者の運転指導者向けに、実際に車を運転する講習を開催し、活動の広まりと定着を図りました。 【開催実績】 7月8日、22日開催 32事業者37名の方が参加	支援内容を見直しつつ、継続して実施する予定です。
○今後検討が必要な取組についての状況		
エコドライブの実践率を向上させるための効果的な働きかけについて、検討します。	・事業者向けのエコドライブ活動セミナーを開催し、実際にエコドライブ活動に取り組む企業による事例紹介等を行いました。 【開催実績】 1月29日開催、33事業者47名の方が参加 ・エコドライブの更なる周知を図るため、エコドライブパンフレットの改定を行った。	・エコドライブ活動セミナーについては、継続して実施する予定です。
過度な自動車の利用を減らし、目的に応じて徒歩や自転車、公共交通など多様な移動手段を使い分けることを推進するための取組を検討します。	・札幌市内小学生を対象とした交通環境学習を継続実施するとともに、公共交通を実際に利用しながら楽しむイベントとして、「のりものフォトログin札幌」を開催しました。 ・安全運転管理者等に対する講習会で、公共交通などの利用を呼びかけました。	・札幌市内小学生を対象とした交通環境学習を継続実施するとともに、公共交通を実際に利用しながら楽しむイベントとして、「のりものフォトログin札幌」を継続して実施していきます。 ・環境広場での啓発活動や、モビリティ・マネジメント検討会への参加を引き続き行う予定です。
③公共交通の利用促進【目標削減量：-】		
○目標達成に向けた主な取組の実施状況と今後の予定		
公共交通に対する市民の意識醸成などにより、公共交通の利用を促進します。	・札幌市内小学生を対象とした交通環境学習を継続実施するとともに、公共交通を実際に利用しながら楽しむイベントとして、「のりものフォトログin札幌」を開催しました。	・札幌市内小学生を対象とした交通環境学習を継続実施するとともに、公共交通を実際に利用しながら楽しむイベントとして、「のりものフォトログin札幌」を継続して実施していきます。
地下鉄、バス及び路面電車などの利便性向上により、使いやすい公共交通体系を確立します。	路面電車既設線の制振軌道化や停留場バリアフリー化、ノンステップバス導入補助などを通じ、利便性向上に向けた取組を実施しました。	路面電車既設線の制振軌道化や停留場バリアフリー化、低床車両の導入、ノンステップバス導入補助などを通じ、利便性向上に向けた取組を実施していきます。
○今後検討が必要な取組についての状況		
公共交通の利便性向上の検討を進めます。	公共交通の利便性向上を図るため、アプリ化などリニューアルした札幌周辺公共交通案内（さっぽろえきバスナビ）の運営を行うとともに、より利用しやすいシステムへの改善・修正を実施しました。	札幌周辺公共交通案内（さっぽろえきバスナビ）の運営を行うとともに、より利用しやすいシステムへの改善・修正を検討します。

取組内容	平成29年度の結果	平成30年度の予定
(4) みどり		
① みどりの保全【目標削減量：－】		
○ 目標達成に向けた主な取組の実施状況と今後の予定		
計画的な森林の保全を推進します。	・森林3.4ha(南区南沢、藤野)を公有化し、南沢第二都市環境林及び藤野野鳥の森都市環境林として保全した。 【都市環境林】37箇所 1,728.7ha ・都市環境林管理方針を策定。	・森林2.8ha(南区南沢)を公有化し、南沢第二都市環境林として保全する予定です。 【都市環境林(予定)】37箇所 約1,731ha ・都市環境林管理方針に基づき、森林の保全と活用を図ります。
生物多様性に配慮したみどりの保全を推進します。	・西岡公園で、動植物の生息地である湿地の今後の位置づけや、観察用木道の再配置にかかる意見を、専門家や市民から聞き取る場を設けました。 ・子どもの活動を含む3つの市民団体との協働により在来種の生息・分布調査を年20回以上(参加者数のべ674人)、ガイドウォーク等の自然観察会を年30回程度(参加者数のべ376人)実施し、外来種等の問題についての教育普及に努めました。また、市民協働により特定外来生物の調査・駆除を行うとともに、盗掘により姿を消した植物の復元活動も併せて行っています。	・湿地をはじめとした水環境の保全について周知する活動を引き続き実施します。 ・在来種の生息・分布状況調査年20回程度、ガイドウォーク年30回程度実施します。 ・特定外来生物の調査・駆除、在来種の復元、展示による教育普及活動に取り組む予定です。
○ 今後検討が必要な取組についての状況		
二酸化炭素の吸収源となる森林の機能を保全するため、効率的な森林管理や間伐材などの有効活用について検討します。	・白旗山都市環境林における間伐事業で発生した間伐材について、製材用材・パルプ用材として売払いを行ったほか、林内施設の暖房用の薪として活用しました。 ・都市環境林管理方針を策定。	・白旗山都市環境林での間伐事業を継続して実施し、間伐材の有効利用を図ります。 ・都市環境林管理方針に基づき、森林の保全と活用を図ります。
② みどりの創出【目標削減量：－】		
○ 目標達成に向けた主な取組の実施状況と今後の予定		
市民や企業と連携して、植樹などのみどりづくりを推進します。	・さっぽろタウンガーデナーや公園ボランティアなどへの登録者を募集し、市民や団体との協働によるまちづくりを推進しました。 ・市民や企業、団体などが参加する植樹祭の開催や、企業や団体との協定、森林ボランティア制度などにより、森づくりを推進しました。	・29年度に引き続き、各種ボランティアを募集し、協働によるまちづくりを推進するほか、植樹や育樹に関する各種イベントの開催や協定・ボランティア制度の運用などにより森づくりを推進します。
再開発などによる民有地の緑化を促進します。	市街地再開発事業等においては「札幌市緑の保全と創出に関する条例」に定める緑化率を3割上回る事業計画であることを要件として定めています。 平成29年7月に苗穂駅北口西優良建築物等整備事業に着手しました。	平成30年度に札幌創世1.1.1区北1西1地区第一種市街地再開発事業の完了を予定しています。
○ 今後検討が必要な取組についての状況		
効果的な緑化を推進するための取組を検討します。	・室内温度上昇を抑え省エネ効果のある緑のカーテンや、積雪寒冷地でも実施可能な室内緑化などを推進しました。 ・児童会館や保育園など全75(うち新規15)の公共施設で緑のカーテンを実施し、市民への緑化啓発を図りました。 ・地下歩行空間など全6の公共施設で、自立式壁面緑化パネルを利用した室内緑化を実施し、市民への緑化啓発を図りました。	・29年度に引き続き、緑のカーテンや室内緑化などに取り組み、市民への緑化普及を図ります。 ・なお、緑のカーテンは、市民が多く集まるまちづくりセンターや地区センターなどの公共施設を中心に新規設置する予定です(新規8施設で実施予定)。
③ みどりの活用【目標削減量：－】		
○ 目標達成に向けた主な取組の実施状況と今後の予定		
ペレットストーブの普及拡大などによる木質バイオマスの活用を推進します。	・ペレットストーブや薪ストーブ購入者への補助制度を実施しました。 ・ホームセンターでの展示会や、住宅関連雑誌への広告掲載、路線バス車内での広告映像の配信によりペレットストーブの普及拡大を図りました。	・ペレットストーブや薪ストーブ購入者への補助制度を実施します。 ・ホームセンターでの展示会や、住宅関連雑誌への広告掲載、路線バス車内での広告映像の配信によりペレットストーブの普及拡大を図ります。
○ 今後検討が必要な取組についての状況		
木質バイオマスの地産地消などによるさらなる活用に向けた近郊市町村との連携について検討します。	・展示会にて道内ペレット生産工場の案内を実施しました。 ・道内他市町村で、木質バイオマスに関する補助金の案内を行いました。 ・環境広場さっぽろにおいて、道内の木質バイオ製品を啓発品として配布しました。	・展示会にて道内ペレット生産工場の案内を実施します。 ・道内他市町村で、木質バイオマスに関する補助金の案内を行います。 ・環境広場さっぽろにおいて、道内の木質バイオ製品を啓発品として配布します。
(5) 廃棄物		
① ごみの減量・リサイクル促進【目標削減量：約1万t-CO₂】		
○ 目標達成に向けた主な取組の実施状況と今後の予定		
水切りや堆肥化などによる生ごみの減量を推進します。	食品ロス削減を重点項目としたごみ減量キャンペーンを実施しました。 生ごみ堆肥の作り方、使い方を解説する家庭菜園講座等を40回実施しました。 生ごみ堆肥化機材購入者に対し、助成を行いました。(電動生ごみ処理機198台、生ごみ堆肥化器材327台[3月14日時点])	引き続き、食品ロス削減を目的としたごみ減量キャンペーンを実施します。 生ごみ堆肥の作り方、使い方を解説する家庭菜園講座等を40回実施します。 電動生ごみ処理機、生ごみ堆肥化器材購入者に対し、助成を行います。
容器包装プラスチックの減量資源化を促進します。	ごみ減量キャンペーン啓発イベント、出前講座クリーンミーティング等において、容器包装プラスチックの適正排出について啓発を行いました。	引き続き、ごみ減量キャンペーンにおける啓発パンフレットの配布等により、容器包装プラスチックの適正排出について啓発を実施します。
廃棄物系バイオマスリサイクルの調査研究を進めます。	枝・葉・草の堆肥化を進め、農地利用の試験及び品質向上、生産量確保のための製造方法の検討を行いました。	引き続き、枝・葉・草の堆肥の安定生産と普及に向けた調査研究を行います。

取組内容	平成29年度の結果	平成30年度の予定
○今後検討が必要な取組についての状況		
ごみの減量リサイクルを促進する支援制度について検討します。	引き続き、廃棄ごみの減量を進めるため、集団資源回収量を増加させるための啓発を実施しました。	清掃事務所が地域に対して必要に応じてコーディネートを行うなど、集団資源回収を利用しやすい環境づくりを進めます。
新たなりサイクル手法の導入について検討します。	河川の維持管理などにより排出される刈草を固形燃料化するバイオコークス化技術などの調査研究を行いました。	バイオコークス化技術の調査研究については一定の知見が得られたことからH29年度で終了します。新たなりサイクル手法の導入については、引き続き事例収集等に努めます。
②廃棄物発電・熱利用の推進【目標削減量：約1万t-CO ₂ 】		
○目標達成に向けた主な取組の実施状況と今後の予定		
廃棄物発電や熱利用により、ごみ焼却時に発生するエネルギーを活用します。	ごみの焼却時に発生する熱エネルギーを利用して、自家発電のほか、地域熱供給会社などに熱供給を行いました。自家発電については、工場の使用電力を賅うほか、余剰電力を電力会社に売却しました。	引き続き、ごみの焼却時に発生する熱エネルギーを利用して、自家発電のほか、地域熱供給会社などに熱供給を行います。自家発電についても、工場の使用電力を賅うほか、余剰電力の電力会社への売却を継続します。
駒岡清掃工場の更新時にごみ焼却エネルギーをより効率的に回収するシステムを導入します。	効率的なエネルギー回収システムの導入により、エネルギー供給拠点としての機能を高め、一次エネルギーの削減とそれに伴うCO ₂ 削減を図る更新計画を進めました。	効率的なエネルギー回収システムの導入とその利用により、CO ₂ 削減を図る更新計画を策定します。
○今後検討が必要な取組についての状況		
廃棄物を活用した、より効率的な発電熱利用に向けた検討を進めます。	駒岡清掃工場の更新時に、より効率的な発電・熱利用などを推進するための、更新計画を進めました。	駒岡清掃工場の更新時に、より効率的な発電・熱利用などを推進するための、更新計画を策定します。
(6) エネルギー		
①再エネ機器の普及・拡大【目標削減量：約43万t-CO ₂ 】		
○目標達成に向けた主な取組の実施状況と今後の予定		
太陽光発電やペレットストーブなどの再エネ機器の導入に対する補助制度により、機器の普及を推進します。	省エネ・再エネ機器導入のための補助事業である「札幌・エネルギーecoプロジェクト」を実施しました。 【補助実績】 -市民向け 太陽光発電：349件、1,657kW エネファーム：117件 木質バイオマスストーブ：66件 -中小企業向け 太陽光発電：4件、33kW	引き続き、「札幌・エネルギーecoプロジェクト」を実施します。 【対象機器】 -市民向け 太陽光発電、エネファーム、木質バイオマスストーブ -中小企業向け 太陽光発電
大規模太陽光発電をごみ埋立跡地などの未利用地や札幌近郊に積極的に誘致します。	前年度までの誘致施設について、引き続き運用を行いました。	これまでの誘致施設について、運用を継続します。
屋根や土地所有者と太陽光発電設置業者を仲介するマッチング事業を推進します。	ホームページでの情報提供にてマッチング事業を実施しました。	左記内容にて運用を継続します。
○今後検討が必要な取組についての状況		
太陽光発電の設置を促す義務的の制度や導入支援制度、市民出資による設置について調査研究し、施策への反映について検討します。	今後の検討に向け、他都市事例の情報を収集しました。	今後の検討に向け、引き続き、他都市事例の収集などに努めます。
再生可能エネルギーの広域的な活用について、道内連携や近郊市町村との協議を進め、方向性を検討します。	住宅用太陽光発電については「P.Vソーラーハウス協会」と連携し、ハウスメーカーや工務店との協働展開をし、普及に向けた取り組みを行いました。	引き続き、ハウスメーカーや工務店と協働しながら、太陽光発電の普及に向けた取り組みを進めていきます。
②分散電源の普及・拡大【目標削減量：約23万t-CO ₂ 】		
○目標達成に向けた主な取組の実施状況と今後の予定		
燃料電池、コージェネレーションシステムなど、分散電源の導入に対する補助制度の運用により、機器の普及を推進します。	省エネ・再エネ機器導入のための補助事業である「札幌・エネルギーecoプロジェクト」を実施しました。 【補助実績】 太陽光発電：349件、1,657kW エネファーム：117件 コレモ：313件	引き続き、省エネ・再エネ機器導入のための補助事業である「札幌・エネルギーecoプロジェクト」を実施します。 【対象機器】 太陽光発電、エネファーム、コレモ
省エネ再エネ機器に関する総合窓口を活用して、分散電源の導入費用や技術情報、補助制度などに関する情報提供を強化します。	環境プラザで、ソフト対策だけでなく、機器導入などのハード対策も含めて対応できる「省エネ・節電総合相談窓口」を運営しました。	相談日を毎週木曜日（13:00～16:00）に変更し、実施します。
○今後検討が必要な取組についての状況		
大規模事業者に対する分散電源の導入支援について、検討します。	今後の検討に向け、他都市事例の情報を収集しました。	今後の検討に向け、引き続き、他都市事例の収集などに努めます。
③エネルギーネットワークの強化【目標削減量：-】		
○目標達成に向けた主な取組の実施状況と今後の予定		
都心地区における熱と電力の面的利用ネットワークの将来像やまちづくりと一体となった実現手法などを総合的に調査検討し、都心エネルギー施策を策定します。	札幌都心の低炭素化と持続的発展を支えるエネルギーに関する総合的かつ計画的な施策推進のための基本方針を示す「札幌都心エネルギーマスタープラン」の策定及び、マスタープランの実現に向けた10年程度の中期的な事業の実施計画や取組内容を示す「アクションプラン」の策定に向けた検討を行いました。	有識者、エネルギー事業者等からなる都心エネルギープラン検討会議を開催し、アクションプランの策定とその後の事業展開に向けた具体的な協議、検討を進めます。
○今後検討が必要な取組についての状況		
都心の開発に合わせたエネルギー供給拠点及び熱導管ネットワークなどのインフラ整備と、ネットワークへの接続誘導策などについて検討します。	マスタープラン及びアクションプランの検討において、インフラ整備や誘導策などについても一体的に検討を行いました。	引き続き、同様に検討を進めます。